

Title	臨床哲学研究会の記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 12 P.102-P.104
Issue Date	2011-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/20982
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

臨床哲学研究会の記録

《研究会》

第1回 (1995.10.25)

鷺田清一 (大阪大学教授・倫理学) : 《苦しむ者》 (homo patiens) としての人間

第2回 (1995.11.30)

中岡成文 (大阪大学教授・倫理学) : 臨床哲学はどのようなフィールドで働けるか

入江幸男 (大阪大学助教授・哲学) : ボランティア・ネットワークと新しい〈人権〉概念の可能性

第3回 (1996.4.25)

フリー・ディスカッション

第4回 (1996.5.17)

川本隆史 (跡見学園女子大学教授・倫理学) : 関東大震災と日本の倫理学 四つの症例研究

第5回 (1996.5.30)

池川清子 (北海道医療大学教授・看護学) : 看護 生きられる世界からの挑戦

第6回 (1996.6.20)

堀一人 (大阪府立刀根山高校教諭) : 「おかわりクラブ」の実験から職業選択から自己実現への道筋

第7回 (1996.9.26)

鷺田清一・中岡成文 : 哲学臨床の可能性

第8回 (1996.10.17)

小松和彦 (大阪大学教授・文化人類学) : 「癒し」の民俗学的研究

第9回 (1997.1.23)

荒木浩 (大阪大学助教授・国文学) : 「心」の分節 中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第10回 (1997.7.3)

鷺田清一 : 臨床哲学事始め

山口修 (大阪大学教授・音楽学) : 音と身

第11回 (1997.9.25) 「看護の現場から」

伊藤悠子 (芦原病院看護婦) : Feverphobia の克服に向けて —Nightingale 看護論に依拠した小児科外来における実践から

西川勝 (PL 病院看護師) : 臨床看護の現場から

第12回 (1997.11.27)

小林 愛 (奈良市社会福祉協議会・音楽療法推進室) : 音楽療法をめぐって

第 13 回 (1998.7.2)

パネルディスカッション「学校を考える：『不登校』という現象を通して」

提題者：栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）：不登校を語ること ―― 不登校の「私」性

寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）：誰が「なぜ学校に来るのか？」に答えられるか

畑英里（臨床哲学・研究生）：「学校」という踏み絵

第 14 回 (1998.9.24)

山田潤（大阪府立今宮工業高校定時制教諭）：子どもの現在 学校の現在 ―増え続ける不登校の問いかけるもの

第 15 回 (1998.12.12)

パネルディスカッション「学校の現在と不在 哲学の現場から〈不登校〉現象を考える」

提題者：栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）

寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）

畑英里（臨床哲学・研究生）

第 16 回 (1999.4.17)

浜田寿美男（花園大学教授・発達心理学）：生きるかたちを伝える場としての学校

第 17 回 (2000.2.19)「哲学教育の可能性と不可能性 高校の授業から」

堀一人（刀根山高校教員）

大塚賢司（同志社高校教員）

第 18 回 (2000.7.1)

中島義道（電気通信大学教授）：哲学の教育 対話のある社会へ

第 19 回 (2001.7.14)

西村ユミ（日本赤十字看護大学）：臨床のいとなみへのまなざし

武田保江（臨床哲学・博士課程修了）：「死体と出会った」エピソードをもとに

第 20 回 (2009.12.9)「教材から哲学と教育を考える」

本間直樹（大阪大学 / 臨床哲学）：きく、はなす、かんがえる：西宮市香櫛園小学校の子どもたちとともに

武田朋士（播磨学園）：少年院における対話ワークショップの試み

菊地建至（関西大学非常勤講師）：大学の哲学・倫理学の「教材」の多様さと共通性：「教職」科目を中心に

第 21 回 (2010.2.20) 第 3 回哲学教育合同研究会「教育」

山田圭一（中央学院大学非常勤講師）、土屋陽介（日本大学）、村瀬智之（千葉大学）

：「ロゴスの道德教育の可能性と有効性」

豊田光世（東京工業大学）：「こどもの哲学と環境倫理教育」

第 22 回 (2010.7.24) 「ネオ・ソクラテック・ダイローグの起源と実践」

寺田俊郎 (上智大学): NSD の起源—ソクラテスでもネルソンでもなく」

堀江剛 (広島大学) NSD の『現場反省的』活用を考える: 国際共同研究プロジェクト「遺伝対話」の経験から

會澤久仁子 (熊本大学): NSD による医療の原則と価値の相互理解

本間直樹 (大阪大学): 対話進行役養成における NSD の効能

第 23 回 (2010.7.24) 「マイナスからの哲学・倫理学教育」

菊地建至 (関西大学ほか非常勤講師): 「日常を哲学すること」をはじめめる・つづけるきっかけになる映像
活用授業—実演を中心に

田村公江 (龍谷大学): 大学生への学習の支援のあり方とその困難—専任教員としての経験から

《公開シンポジウム》

第 1 回 (1996.12.13) 「哲学における〈現場〉」

熊野純彦 (東北大学助教授・倫理学): 死と所有をめぐる〈臨床哲学〉への途上で

古東哲明 (広島大学教授・哲学): 臨床の現場 内と外との交差点

池田清彦 (山梨大学教授・生物学): おまえのやっているのは哲学だ / おまえには哲学がない

第 2 回 (1997.2.21) 「ケアの哲学的問題」

川本隆史 (東北大学教授・倫理学): 生きにくさのケア—フェミニストセラピーを手がかりに

清水哲郎 (東北大学教授・哲学): 緩和医療の現場—QOL と方針決定のプロセス

コメンテーター: 中野敏男 (東京外国語大学教授・社会学)

第 3 回 (1998.2.20)

第一部 テーマ「女性におけるセルフをめぐる」

北川東子 (東京大学): 孤立コンプレックス

吉澤夏子 (日本女子大学): 親密な関係性

コメンテーター: 藤野寛 (高崎経済大学)

コーディネーター: 霜田求 (大阪大学)

第二部 テーマ「国際結婚」

山口一郎 (東洋大学): ドイツと日本のあいだで日常としての文化差

嘉本伊都子 (国際日本文化研究センター):

国際結婚とネーション・ビルディング

コメンテーター: 浜野研三 (名古屋工業大学)

コメンテーター: 熊野純彦 (東北大学)

コーディネーター: 田中朋弘 (琉球大学)